

安全な職場づくり

ものづくり企業にとって、安全は事業活動の大前提であり、全てに優先するものです。山陽特殊製鋼グループは、トップダウンとボトムアップを融合させた安全活動を推進し、総合完全無災害の達成を目指しています。

安全活動に近道はありません。日々の安全活動を積み重ね、働く全ての人が安全に安心して働くことができる職場づくりに取り組んでいます。

2025年総合安全衛生管理方針

- **基本方針** 安全活動に必要な「GRIT力」を伸ばすには、簡単・単純な「基本」となる約束事を疎かにせず、軽んじず、守り続けること。安全に強い職場を構築する上で、「基本」に忠実な作業の繰り返し、の差が絶対的な安全力の差となると心得、「凡事徹底」を基本とした安全活動に徹することで、着実に職場や個々人の安全力を向上させる。
- **スローガン** 「誰もが知っている」、「誰もが守れる」約束事を「誰にも出来ない」ほど、徹底して守り抜き「誰もが目指す」完全無災害の達成
- **安全三原則** 止めて、離れて、手元足元確認し、それでも本当に安全か再確認
- **目標** 総合完全無災害の達成 労働災害「0」 通勤途上災害「0」

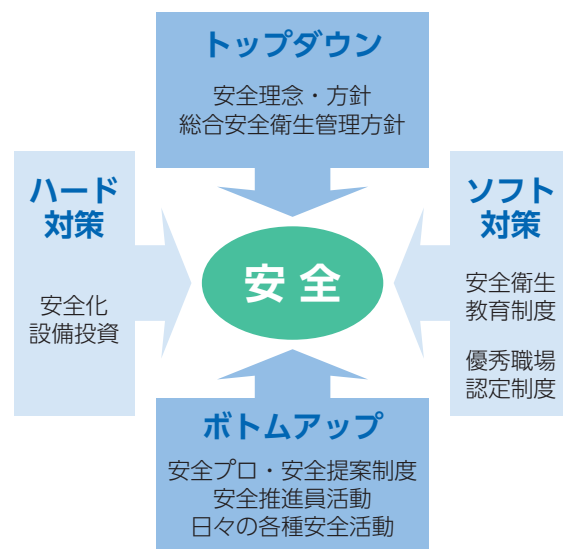
安全衛生マネジメント

安全衛生管理委員会を毎月開催し、社員の危険および健康障害を防止するための基本的対策や労働災害の原因および再発防止対策等を審議しています。安全衛生管理委員会の構成員は、法令に則って半数の委員を労働組合代表者とし、労働者の意見を安全衛生施策に反映させる体制としています。また、「トップダウンとボトムアップの融合」と「ハード対策とソフト対策の両輪」によって、作業リスクの低減と安全に強い職場づくりを推進し、毎月の安全活動に関する取り組み状況や年間の安全衛生活動の総括を取締役会に報告することで、効果的にPDCA(計画、実施、監視・監督、改善施策)のマネジメントサイクルを回し改善を進めています。

海外子会社については、現地工場での安全モニタリングやWEB会議を活用して、安全面におけるウィークポイントの抽出や、各社の取り組みに関する意見交換・情報共有等による安全活動へのサポートおよび指導を実施し、当社グループ全体の安全活動を推進しています。



海外子会社での安全活動サポート



<年別災害件数および度数率>



安全提案制度と安全プロの活動

各職場の作業者が自身の作業や職場の安全について改善策を提案する「安全提案制度」を導入しています。

実際に作業を行っている作業者から安全についての提案を求めることは、具体的な安全対策を立てる上で有効であるだけでなく、提案の過程を通じた安全意識の向上や、当社が安全活動の核心としている真のボトムアップ安全活動への変革に繋がります。

また、現場の班長の中から「安全プロ」を任命し、自職場のパトロールやヒヤリ分析等を通じて作業リスクの抽出や改善に取り組んでいます。製造現場の作業に精通した安全プロ自らが自職場の作業や環境改善を率先して行うことで、安全意識の向上に繋げ、安全提案制度との相乗効果を図っています。

安全推進員活動

各職場から選抜された入社6年以上の若手・中堅社員に正しい安全知識とルール順守の重要性を教育し、安全性を自ら判断して行動できる人材を育成する「安全推進員活動」を実施しています。

安全推進員の主な活動としては、職場作業での危険予知訓練や自職場および他職場のパトロール活動を通じて、自職場の良い点および劣っている点を認識する視点や、危ない状態を危険であると認識する感受性を高めるほか、危険な作業を洗い出してリスク評価を行うリスクアセスメント活動を経験し、設備対策も含めた改善措置による本質安全化に繋がっています。



安全体感センター

危険を疑似体験できる安全体感研修センターを設置しています。2024年は2,357人が研修を受講し、これまでの受講人数は延べ38,422人になりました。

2018年よりVR(仮想現実)を活用した設備を導入し、より臨場感を味わえるようになりました。今後も新たな教育内容を充実させ、危険を回避することの大切さを社員とともに考えていきます。



「山特徴考塾」を開講

～SANYO「安全4J」(自覚・自発・自立・自律)向上のために～

「山特徴考塾」の2024年版は初年度開催の教育内容からブラッシュアップを行い、職場配属から一定期間を経過した新入社員を対象として開講しました。職場環境や実作業を体感した新入社員が改めてルールを守りきることの重要性と安全衛生に関する知識を身に付け、自主的に安全考動ができるような教育を実施することで、当社の将来を担う安全に強い人材の育成に繋がてまいります。

自覚

自己の個性を深く理解

自発

自己の弱点を補う能動的な行動

自立

更なる自己成長を目指す

自律

甘えや気の緩みに気付き律する

講義



6S活動や指差呼称などの安全活動について、その目的や活動のポイントをより詳細に学びました。

また、座学やグループ討議、演習を通じて、コミュニケーションがヒューマンエラーを防止するだけでなく、組織におけるチームワークの醸成にも繋がることを実際に体感しました。

※ 6S活動：整理、整頓、清掃、清潔、躰、作法

実技



玉掛け演練と危険予知訓練を行いました。玉掛け演練では、手順を基礎から学び、指差呼称や正しい道具の使い方を徹底しました。危険予知訓練では、危険予知の視点と考え方について学習した後、作業状況のイラストを用いた危険抽出を実践することで、危険予知能力を向上させました。